

(認定) 特定非営利活動法人
シェア＝国際保健協力市民の会

年次報告書 2016

2016 年の活動

カンボジア

予防可能な病気から子どもたちを守り
栄養状態を改善する

東ティモール

全国普及を目指し行政との連携をより一層深める

日本

外国人母子の健康を守るため新プロジェクトを始動

2016
Annual Report

流動化し、互いに対立する世界の中で、 地域を大切に活動する



創立以来シェアが大切にしてきたプライマリ・ヘルス・ケア（PHC）の理念や方法は、1978年という東西冷戦のまだ厳しかった時代に生まれたものでした。それも、1974年、開発途上国 77 カ国（G77）が結束して先進国に迫り、国連総会で決議させた「新国際経済秩序（NIEO）」という、貿易、金融、天然資源、債務などのより公平・公正な分配と、ルールに基づく世界秩序の形成を目指した決議と機運が、ある意味で、途上国の保健・医療問題のパラダイムシフトまで呼び込んだという面があったと思われます。そのことはアルマアタ宣言の条文にも反映しています。

つまり人類は危機的な状況に置かれたときにこそ、その危機を解決し、より融和的で、普遍的な価値を持つ社会を創造し、共有していこうとする、熱意や知恵も生み出してきたのです。現在の、トランプ大統領就任「後」の世界の醸し出している、分断され相互に対立している「地球村」の姿、そこで日々繰り広げられている、無差別テロやミサイル実験や都市爆撃や難民迫害、飢餓や貧困の映像を見ていると、40年前の、核戦争に踏み込みかえなかった世界の姿と、二重写しになって迫って来るものがあります。その意味で、今の時代は、新しい多文化、多民族の共生・共存時代幕開けのための準備、生みの苦しみの季節なのかもしれません。

さまざまな地域の団体や個人のご厚意や協力をいただきながら、シェアはカンボジアや東ティモールやタイや南アフリカや日本国内などで、過去 34 年間働いてきましたが、どんな試練がふりかかろうと、地域の人々との信頼関係を失わず、彼らとの信義を大切に、協働していく精神を土台にして、PHCの旗印を掲げて頑張っていけば、何とか道は開けていけるだろうという、すこし能天気な確信を保持しています。

そんなことを感謝とともにかみしめながら、皆さまに2016年度の活動報告をお届けし、忌小輩の会「批判や「支援」をいかに受け止めるか」と、心からお願ひ申し上げます。

2017年5月 代表理事 本田徹

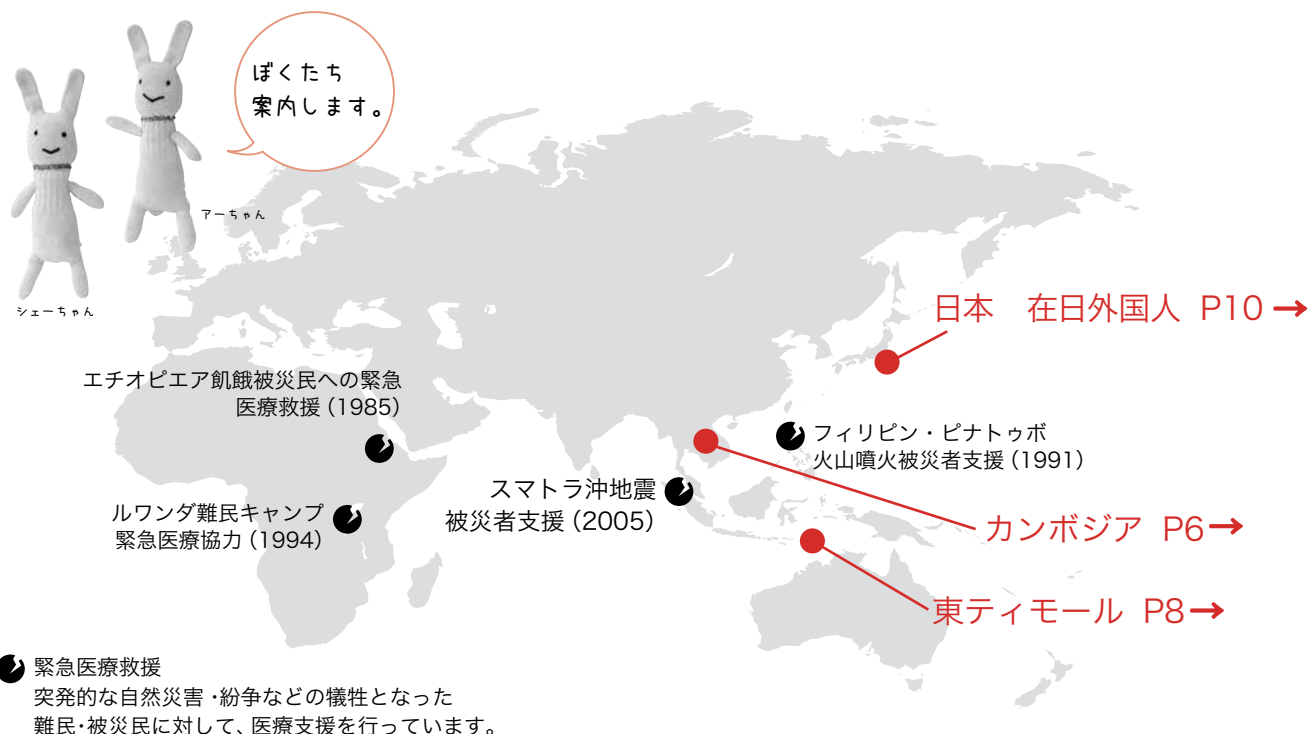
シェアが目指していること

Health for ALL

シェアは、すべての人々が心身共に健康に暮らせる社会が実現することを目指しています。

シェアが取り組んでいること

シェアは、厳しい境遇にある住民が自ら健康を改善することを、側面から支援します。
また、シェアは、貧富の差や不公正を解消するために私たちに何が出来るかを、日本社会に問いかけていきます。



	カンボジア	東ティモール	日本
出生時平均余命 (2015)	69 歳	69 歳	84 歳
5 歳未満児死亡率 (出生 1,000) (2015)	29 人	53 人	3 人
栄養不良の 5 歳未満児の比率 (低体重) (2010 ~ 2015)	24 %	38 %	3 %
妊産婦死亡率 (出生 10 万) (2015)	161 人	215 人	5 人
成人の HIV 感染率 (2014) 推定	0.6 %	-	-
世帯の豊かさ 5 歳未満児に見られる発育阻害 (2009 ~ 2015)	2.3 倍	1.5 倍	-
世帯の豊かさ 専門技能者が付き添う出産 (2010 ~ 2015)	1.3 倍	6.9 倍	-

出典：ユニセフ世界子供白書 2016
世帯の豊かさ：最下位 20%、最上位 20%の比較

世帯の豊かさから、健康格差が見えてくるね。



2016年の活動ハイライト

2016年の活動の一部をご紹介します。

	1月	2月	3月	4月	5月
 カンボジア	<p>20 か村における包括的乳幼児健診フォローアップ（通年） 保健ボランティア会議</p> 	<p>地方自治体との連携協議開始</p>	<p>保健予算委員会出席 州保健局定例会議 国立栄養局会議</p> 	<p>新事業地調査開始（ブレアビシア州） 四半期活動モニタリング 自治体との共同による離乳食教室開催支援（通年）</p> 	<p>新事業地調査結果に基づいた、事業形成ワークショップ</p>
 東ティモール	<p>ティリ県学校保健委員会設立に向けて委員会の役割を協議</p> 	<p>学校保健の実態把握のためのベースライン調査を開始</p> 	<p>ティリ県での学校保健活動の中心的役割を担う、学校保健委員会を設立</p> 	<p>学校でのベースライン調査実施。県内のほぼ全小中学校(92校)を訪問</p> 	<p>保健省から教育省の研修機関職員を対象に、学校保健研修の実施</p> 
 日本 在日外国人	<p>外国人結核患者療養支援のための支援員（通訳）のフォローアップ研修を実施（20名参加）</p> 	<p>東京都新宿区で無料健康相談会を開催し13名が受診 研究班で「現場で役立つ！外国人のHIV療養支援セミナー」開催（愛知県、30名参加）</p> 	<p>シェア事務所でタウンと共に電話相談員研修会を実施（6名参加） 無料健康相談会を開催し、千葉県市原市で38名、横浜市で36名が受診</p> 	<p>千葉県市原市の教会でフィリピン人母親たちへのインタビューを実施 東京都八王子市のお寺でタウンがHIVや結核のアウトリーチ活動を実施（約15人に資材配布）</p> 	<p>代々木公園で開催されたタイフェスティバルに出席</p> 
 事務局	<p>ホットジェネレーションによる在日外国人の健康をテーマとしたチャリティミュージカル「Stars ～名もなき星たち～」公演</p> 	<p>インターン説明会開催 Dr. 本田徹の健康居酒屋開催</p> 	<p>タイ事業報告会 会員総会 「広報ボランティア」実施</p> 	<p>世界人口開発委員会 2016 に本田代表理事が参加</p> 	<p>タイフェスティバル、東ティモールフェスタに参加</p> 

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<p>各保健センターでの年間計画作成会議（レビュー＆プラン）開催 保健ボランティア会議</p> 	<p>20か村フォローアップ研修 9保健センターへの乳幼児健診拡大導入研修 四半期モニタリング</p> 	<p>保健ボランティア会議開催 シェア・スタディツアー実施</p> 	<p>保健ボランティア会議開催 四半期モニタリング</p> 	<p>新事業地訪問 村マッピング修正</p> 	<p>シェアカンボジア事務所年次計画会議</p> 	<p>四半期モニタリング JICA草の根技術協力事業後調査対応</p> 
<p>学校保健委員会活動の広報を目的としたニュースレター第1号を全98校や関係者に配布</p> 	<p>ローカルスタッフを対象に工藤専門家による教材作成研修や仲佐理事による調査分析法の研修実施</p> 	<p>校長ワークショップや教員対象の学校保健研修を実施（36校中35校参加）</p> 	<p>ディリ県の離島・アタウロ島で教員研修を実施 学校保健用教材を県内全校に配布</p> 	<p>学校健診の導入に先駆け、実施の手引きや記録表の案を関係者と作成</p> 	<p>校長ワークショップ実施（健康診断について協議） 学校保健ニュースレター第2号発行</p> 	<p>学校保健の全国普及を目指した全国ワークショップを開催 県学校保健委員会も1年間の活動成果を発表</p> 
<p>東京都江戸川区でタウンがエイズ啓発活動を実施（20名参加）</p>	<p>東京都杉並区協働提案について杉並区と協議（母子保健事業）</p>	<p>東京都板橋区で無料健康相談会を開催し、49名が受診（3名の母子保健相談に対応） 東京都結核担当保健師対象研修へ講師として参加</p> 	<p>外国人結核患者療養支援のための新規支援員（通訳）研修/選考会を行い46名体制に</p> 	<p>クラウドファンディングに1ヵ月挑戦し、161名より約220万円の寄付を獲得 外国人結核患者療養支援のための支援員（通訳）のフォローアップ研修を実施（17名参加） 東京都板橋区の子育てサポーター研修へ講師として参加</p> 	<p>東京都八王子市でタウンがHIV・結核アウトリーチ活動を実施 東京都杉並区のネパール人学校で外国人母子に関する情報収集を実施</p> 	<p>東京都足立区の教会で外国人母子に関する情報収集を実施</p>
<p>カンボジア・東ティモール現地駐在員の報告会を開催</p> 	<p>「Over the Wall ～世界壁画プロジェクト～」の東ティモールイベントに参加</p> 	<p>台東区・夏ボランティア体験ボランティア受入</p>	<p>Dr. 本田徹の健康居酒屋開催</p> 	<p>グローバルフェスタ、江戸川区民まつりバザーコーナーに出席 国際保健キャリアナビ開催</p> 	<p>株式会社カンロにて「ぬいぐるみワークショップ」開催</p> 	<p>年次計画会議 インターン企画開催 火曜（通う）ボランティア感謝ランチ会実施</p> 

予防可能な病気から
子どもたちを守り
栄養状態を改善する

カンボジア Cambodia



活動の背景・課題

行政・村のボランティアたちのつながりが子どもの健康を変える

プレイベン州はカンボジア国内でも子どもの健康指標が悪く、特に、栄養不良の子ども割合が高い州の一つです。経済状況が厳しく、インフラも十分に整っていない農村地域で子どもの健康を守るためには、住民自身の子どものケアについての知識や行動が改善され、住民に最も近い医療機関である保健センターのスタッフが、栄養不良の子どもを早期に発見し、適切に対応できる仕組みが必須です。シェアは保健センターや保健ボランティア等の地域の人々と協力しながら、子どもの健康増進を目指した①予防、②診断、③治療の3本柱の活動を実施しています。



プロジェクト概要

スバイアントー郡保健行政区における子どもの健康増進プロジェクト

活動目的

コミュニティをベースとした2歳未満児の健康増進活動（包括的乳幼児健康診断、保健教育、乳幼児の適切な栄養についての啓発活動）が定着する。

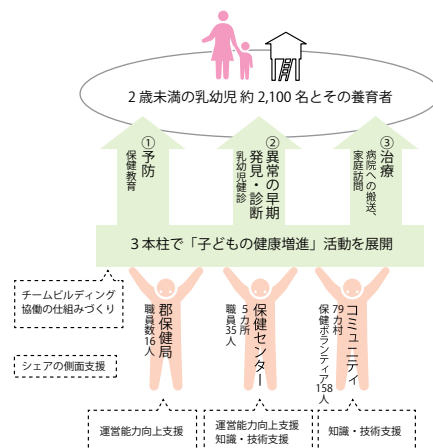
活動地

プレイベン州スバイアントー郡保健行政区内(79ヶ村)

対象者

2歳未満の乳幼児 約2,100名とその養育者

活動概要図



活動報告

子どもの健康増進プロジェクトの引継ぎ

プレイベン州における活動も、9年目を迎えました。前事業で定着したコミュニティにおける子どもの健康増進活動が、郡保健行政局をはじめとする現地の人びとによって自立して実施されるよう、2016年から2年間の引継ぎ事業を実施しています。まず、今までの活動地域で十分にフォローアップの行えていなかった20か村において、保健ボランティアへの再研修を行い、計50回の乳幼児健診が実施され、600名近い子どもたちが受診しました。更に、郡保健行政局が管轄する11保健センター全てに、乳幼児健診活動の導入研修を実施し、子どもの健康増進活動が広がっています。



子どもの体重を測る保健ボランティアと、それを見守るお母さん

成果

郡保健局行政官のコミットメント向上、地方行政との連携

研修の実施、乳幼児健診活動の監督、保健センターからの報告のまとめ等、郡保健局が担う役割は多岐に渡ります。その全ての活動に、母子保健担当官がとても積極的に関与するようになりました。さらに、適切な食事に関する啓発活動として実施している離乳食教室は、自治体の女性子ども委員会から予算が措置されるよう働きかけ、資金的な課題の解決にもつながっています。この一連の関わりを通して、郡保健行政局が中心となって、自立への歩みを進めています。



村での離乳食教室を実施監督する、郡保健行政局の母子保健担当官（左上）

活動計画

郡保健局へ引継ぎ、新たな活動地で子どもの健康増進プロジェクト開始

プレイベン州での活動は2017年半ばに終了し、新たな活動がプレアビヒア州で始まります。プレアビヒア州は、カンボジア北部に位置し、タイおよびラオスと国境を接するへき地です。主要産業が少なく、多くの人が出稼ぎに出ています。慢性的な栄養不良である発育阻害 (Stunting) 状態にある子どもは4割を超え、カンボジアの平均と比較すると10%以上高いのが現状です。プレイベン州で定着した子どもの健康増進プロジェクトを、更に子どもの健康状態が劣悪な地域で展開し、カンボジア国内で汎用性のある事業モデルとして、保健省に提言していくことも計画しています。

喜び 保健ボランティアが語る、乳幼児健診の一日



トロペアン エツ村の保健ボランティア、ベン・サレッさん

およそ5年前から、この村でも乳幼児健診を始めました。今では誰かに指示をされなくても、計画に従って自主的に乳幼児健診を実施しています。乳幼児健診の会場は、村の中心部にあり、村の人たちが集まりやすい別の保健ボランティアの家です。乳幼児健診の日には、秤と子どもを入れる籠を天井から吊るしてセットします。子どもの体重を測ったら、保健センタースタッフと協力して、数値をイエローカード（成長曲線）に記入します。

定期的に乳幼児健診を実施することで、低体重の子どもを村で把握し、子どもたちの成長や健康状態を確認することができます。保健ボランティアとして、村の人たちや、特に小さい子どもたちのために働けることをとても幸せに思っていますし、自分自身を誇らしく思います。

全国普及を目指し
行政との連携を
より一層深める

東ティモール

TIMOR-LESTE



活動の背景・課題

学校での保健教育が健康で豊かな未来を育む

人口 120 万人の約半数が 19 歳以下の東ティモール。2002 年の独立以降、国の復興と発展が進んでいます。しかし子どもたちを取り巻く環境は依然として厳しく、全国の 6 割の学校に衛生的な水やトイレがありません。下痢や肺炎など、予防可能な病気が原因で亡くなる子どもも多くいます。

健康で豊かな未来を育むためには、学童期に病気を予防するための正しい知識や習慣を身に付けることが大切です。シェアは、2007 年から保健・教育行政と共に学校保健を担う人材育成や、制度化に取り組んでいます。



プロジェクト概要

初等教育課程における保健教育推進プロジェクト

活動目的

ディリ県での学校保健運営の実施に基づき、全国で実施可能な国の学校保健プログラムの運用モデルを構築する。

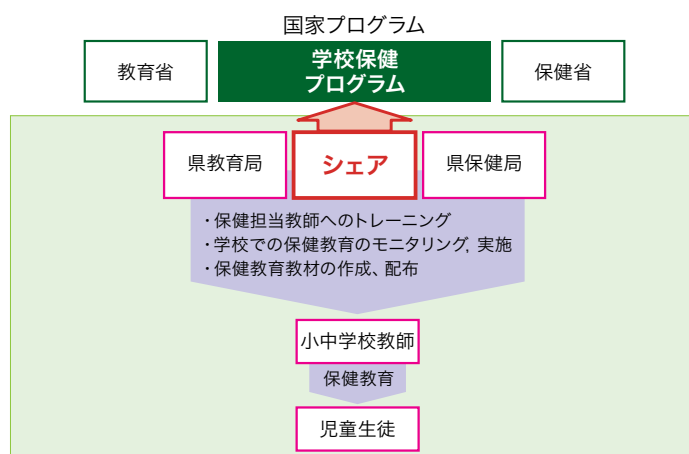
活動地

ディリ県全 6 郡（人口 26 万 6,000 名）

対象者

ディリ県小中学校 98 校、校長 98 名、教師 194 名、児童生徒 6 万 3,000 名

活動概要図



活動報告

保健と教育の連携強化を目指し、県学校保健委員会を設立

学校保健の実施には保健と教育分野の協力が欠かせません。しかし、県・国の各レベルにおける、両分野間の調整や連携は長年の課題となっています。関係者と時間をかけて協議した結果、その打開策として県内の学校保健活動を調整・統括する役割を担う県学校保健委員会を3月に設立しました。県保健局と教育局の担当官を中心に定期的な会合を開き、県内の学校保健計画の立案・実施や、関係省庁との連携強化が始まっています。また、2018年まで3か年計画で実施する本事業の成果をはかる、事前評価調査として学校保健の実態を把握する全校調査を行いました。



学校を訪問する秋山（後方中央）と福山（後方右）

成果

既存の枠組みを活用した学校保健研修制度と学校モニタリング¹⁾体制の構築へ

学校で継続的に保健活動が行われるためには、定期的な学校保健研修の提供と、学校モニタリングを通じた各校への支援が重要です。2007年から実施してきた学校保健活動では、シェアがその役割の多くを担いながら制度化を模索してきました。しかし今年から、教育省の既存の枠組みに学校保健分野を組み入れることで、国や県の関係者と合意形成をすることができました。



児童生徒の爪の長さや汚れを確認する学校巡回指導員

学校保健研修については、教育省研修機関による既存の現職教員研修と同様に行われることになり、実施主体を教育省へと移管でき、今年の参加率はほぼ100%でした。今後、持続的な人材養成システムとなることが期待できます。学校モニタリングについても、日ごろ学校を巡回指導する県教育局所属の5名の学校巡回指導員が6名の保健スタッフと協力して学校保健分野も担うことになりました。4月から開始し、11月までに97校中36校でモニタリングが実施されました。

活動計画

県学校保健委員会による自主的な学校保健運営を進める。

今年新設した県学校保健委員会を中心とする学校保健活動は、教育大臣の承認も受けた新しい試みです。本事業終了後も継続的に機能することを目指して、委員会の役割への認識強化と自主的な運営を促進します。また、2016年より学校巡回指導員によるモニタリングも開始しましたが、今後は各学校と学校巡回指導員が協力して保健課題の解決を図る支援型モニタリングとなるよう、質の向上を目指します。

挑戦 デリ県ビダウマサウ小学校 ジョゼ・グスマン校長先生より



ジョゼ・グスマン校長先生

先駆的な学校保健活動を行う「モデル校」に選ばれた当初、教師たちの間から「設備や資金の援助が無いなら協力する必要はない」という声が出ました。そこで私は「保健活動は本来自分たちの仕事。このプログラムが目指しているのは学校の能力を強化すること」と説得しました。学校保健研修等で知識を得た今では、教師たちが自主的に活動を提案しています。引き続きモデル校として他校と経験を共有し、助けにもなっていきます。

1) 進行中のある活動に関してその進捗状況を把握・確認すること。